

地域の人々へのインタビューで 言葉の力をつける（二年）

新しい指導を考える会

地域の方々と「文化」や「芸能」を体験する学習

本校では、毎年一学期に学校を地域に開く取り組みの一つとして、体験学習を実施している。これは、地域の中から、職業や趣味を通して一芸に秀でていらっしゃる方を講師としてお招きして、体験や発表の学習を行うもので、二十を超える講座を開設している。この体験学習にあわせて、毎年、国語科の授業で講師の方へのインタビューを実施している。インタビューに際しては、生徒たちに五つの言語意識（相手意識、目的意識、場面意識、方法・条件意識、評価意識）を明確にさせることに留意した。本稿では、『小さな「物語」を探る』（二年第七単元）と関連させて取り組んだ実践を紹介する。

指導の目標

単元計画として次のような価値目標と技能目標を設定した。

価値目標

- ・事前の準備や実際のインタビューを通して、地域の方々の生き方や考え方を学ぶ。

技能目標

- ・インタビューを通して、必要な情報が収集できる。
- ・言語意識をもってインタビューができる。
- ・聞き取った情報を整理し、わかりやすく発表できる。

を想定したシナリオ作りに取り組んだ。

第四時では、グループごとに役割を決めて、作成したメモとシナリオを基にしてインタビューの練習を行った。グループ内の相互評価を通して、気づいたことや改善点を本番のインタビューで取り入れるように確認する場も設定した。

インタビューシナリオ 2年1組 Aグループ 氏名			
目的	相手	場面	方法
講師の方のことをよく知り、文化体験学習を楽しめること。	文化体験学習の講師の方	講師の教室	直接対話によるインタビュー
質問事項			
質問の意図とポイント			
予想される答え			

第三次（五時）

事前に講師の方に連絡を取って、インタビューに臨んだ。体験学習当日、講座開始前に一時間の授業枠を設定し、学年全体を集めて簡単な説明を行ったあと、グループごとに講師控え室などでインタビューを行った。一クラス九グループ、学年四クラスなので、三十六人の講師の方にインタビューをお願いした。

実践報告（七時間扱い）

第一次（一、二時）

本単元の学習の意義や目標をとらえさせてからグループを編成し、インタビューの準備を行った。グループは男女各二名ずつの四人編成とし、仕事分担はインタビュー一名、記録者二名（カメラによる撮影役と発表用原稿作成役、発表の進行役一名とした。インタビューの相手は、講師として来ていただく方の一覧表の中から代表者に選ばせた。その後はグループ単位で、インタビューには何が必要か、どんなことが大事かなどについて話し合いを行った。

第三時では、視聴覚教材（ビデオや「光村国語デジタル教科書」）を用いて良い例と悪い例を比較しながら、インタビューの基本的な形式について学習した。

第二次（三、四時）

第三時では、ワークシートと課題プリントを活用して、インタビューで聞くべき具体的な内容と効果的な尋ね方・聞き方について学習し、質問メモを作成した。また、実際のインタビュー

第四次（六、七時）

まとめとして、この二時間でインタビューの記録を発表できる形にまとめ、各グループごとに発表した。インタビューアと原稿担当の記録係はインタビューの内容を発表用原稿にまとめ、撮影担当の記録係と発表の進行役は発表内容とポイントを模造紙にまとめた。ここでは、どうすればわかりやすい発表ができるかの工夫を考えさせた。具体的には、事実と意見・感想を分けること、視覚に訴える実物を用意すること、発表者によるロールプレイングなどについて話し合いがなされた。

クラス単位での発表会では、評価用紙を準備し、評価意識を明確にしながらか相互評価に取り組んだ。

また、発表を終えたところで、どんな言葉の力を獲得し自分のものにできたかを考える、振り返りの時間をもった。

おわりに

国語科は、生きてはたらく言葉の力を育む教科である。生徒たちが生活の中で生き生きとした言葉を駆使するためには、言葉の学習がなにより大切である。言葉を学習することと生活の中で言葉を使うことを相互に関連させ、さまざまな言語活動例を取り入れて実践しているが、その中で指導者として常に念頭にあるのが、五つの言語意識である。生徒たちが、相手意識、目的意識、場面意識、方法・条件意識、評価意識を確かに身につけて、言葉の力を獲得していけるような、そんな授業をこれからも行いたい。